

# レイ大高島通信

レイカディア大学同窓会高島支部

第86号 令和4年1月18日

発行責任者 清水 良秋

◎「コロナ禍の終息見えず」

新年明けましておめでとうございます。今年も会員皆様にとってもますますの御健勝、ご健康で良い年でありますようお祈り申し上げます

コロナ、コロナで明け暮れた昨年度末に、ドドメが35年振りの大雪でした。

トラの今年こそ、願っております。それでもオミクロン株の急拡大が気になります。

モウー(牛)は、終わりにして頂き、トラさんに頑張って追いついて、願っています。

## ☆支部活動報告

コロナ禍で、事業計画もほとんど実施出来ず、10月19日のボランティア活動の、やすらぎ荘の選定及び除草作業のみとなり、11月9日に予定していたグラウンドゴルフは、悪天候の為2月下旬〜3月上旬に延期する事となっています。オミク

ロン株は、感染力は強いが無症状や、軽症状が多いと聞いています。果たしてそれが良いのか、ゆだんに繋がって居ないのか？

世界中で爆発的な感染者数が報道されています。1月18日に、支部役員会が予定通り開けるか？それすら、心配される状態です。一方で他の支部では、早くからコロナ禍等、無視した形で活発に活動されています。

高島支部だけが自粛している形になりました。第4回支部役員会(ユノ/30)では次の事項を決定しましたのでお知らせします。新入会員の歓迎会の中止。各種活動で、市外へ行った時の交通費は、車代(本部から補填が無い場合)一人の時は1千円、二人以上の時は2千円の補助。昼食代等は補助しない。支部長の順番を、今津〜新旭〜高島〜安曇川地区とする(任期は2年)。令和3年度清水水支部長から次年

度は高島地区で担当。副支部長2名の内、1名はできるだけ女性会員から選任する。ことを確認した。

## ◎本部活動報告

昨年は同窓会創立40周年記念事業が主となりました。コロナ禍の中、自粛の声もありましたが、10年毎の事業でもあり、実施することになりました。9月と10月に予定されていた事業を延期し、12月1日にの大会、12月17日に記念式典が無事開催されました。新年早々に同窓会報つながり38号(同窓会創立40周年記念特別号)が発行される予定です。本部組織では、本年度末で堀江会長が退任の予定。令和4年〜5年度本部役員の改選。42期生の同窓会入会募集中です。第5回常任理事会が2月1日、令和4年定期総会が5月11日に草津校で開催の予定です。

## 防災レポート 5

今回は「冬の嵐」について考えてみましょう。

JPCZ（日本海寒帯気団集束帯）をご存じでしょうか？12月の下旬に急な大雪が降ったのは正にJPCZの現象と思われれます。シベリアの寒気が朝鮮半島の北側の高い山で東西に分かれ日本海で再び合流して、山陰から能登半島に到達するとき、黒潮の海水温が温暖化で上昇し、大量の水蒸気を日本列島に供給して大雪を降らせる現象と思われれます。

冬の深夜地震等による避難を考えてみると、雪があると歩く速度が急激に低下して、夜の暗さと雪のため道もわからずに避難が極度に遅れる恐れが考えられます。日頃から家庭でできる準備として、★カイロや体温を維持する食料の用意★ビニール袋で防水措置の着替えの準備等

が考えられます。

冬の大雪にも負けない体力の維持と日頃の準備で、乗り切りましょう。

防災士

提供

⑳期琵琶湖環境学科 川尻氏

### ◎「高島通信」原稿募集中！

当支部一の通信機関「レイ大高島通信」に各会員様から広く投稿をお願いすることが決定。コラム・川柳・短歌・詩・俳句・写真など、常日頃思っておられる事を文字等で表して原稿を頂きたく思います。原稿は地区役員さんに渡して頂くか、または小生・新旭町太田 清水良秋まで郵便、メールにて送付願います。

送付先 [メールアドレス](mailto:yoshiakishimizu70@gmail.com)

[yoshiakishimizu70@gmail.com](mailto:yoshiakishimizu70@gmail.com)

3 |



昨年末、書類整理中に以前お参りしたことのある西国33か所の、とある寺の写真が何枚か出てきました。その一枚が劣悪な環境の中で必死に生き続けている一本のケヤキの大木でした。

二年前から続く新型コロナウイルスにより社会、経済活動が停滞する中、同じく耐えている大木に人間社会と同じ想いを重ねてみました。何となく人の顔に見えませんか。泣いているようにも、苦しんでいるようにも見えます。人間は長寿でもせいぜい100歳くらいですが、樹木の中には千年以上生き続けているものもあり、生まれた場所で天変地異の中を生き続ける生命力に驚嘆するばかりです。我々も樹木から学び、力強く健康的に生き続けたいものです。因みに、このお寺は京都府内にあります。一度訪れてみて下さい。



「人間万事塞翁が馬」という言葉を知りました。意味はさまざまな解釈がありますが、大まかな意味は、「禍いや福は予測ができないものだ」です。語源は次の通りです。昔、中国北方の塞(とりで)近くに住む占いの巧みな老人(塞翁)の馬が、胡の地方に逃げ、人々が気の毒がると、老人は「そのうちに福が来る」と言った。やがて、その馬は胡の駿馬を連れて戻ってきた。人々が祝うと、今度は「これは不幸の元になるだろう」と言った。すると胡の馬に乗った老人の息子は、落馬して足の骨を折ってしまった。人々がそれを見舞うと、老人は「これが幸福の基になるだろう」と言った。一年後、胡軍が攻め込んできて戦争となり若者たちはほとんどが戦死した。しかし足を折った老人の息子は、兵役を免れたため、戦死しなくて済んだという故事に基づくものです。また人間は「じんかん」とも読むとあります。にんげんとじんかんでは意味が大きく異なりますね。

「人間万事塞翁が馬」と昔習った「景気の波」との考え方が似ていると思いました。「キチンの波」、「ジュグラの波」、「クズネッツの波」、「コンドラチェフの波」です。コンドラチェフの波は 50 年周期で起き技術革新が原因で発生するというものですが、IOT や AI の普及など現代の技術革新は驚くべきスピードで進んでいるのでコンドラチェフの波は現代仕様に見直す必要があると思います。

ロシアの経済学者コンドラチェフさんも予測できなかったのでしょうかね。

焦点がややぼやけましたが、私が言いたいことは人も世間も山と谷があるということと、一喜一憂していても次の大きな波にのまれてしまうということです。皆様こころして生活しましょう。